

クローズアップ定例委員会

高山市初めての義務教育学校(教育課程特例校) 『荘川さくら学園』構想



少子化が進行する中、高山市でも学校再編が急務とされています。2030年代前半には義務教育学校に通う子どもたちの数が激減することが予測されるなか、荘川地域の住民や保護者からは、荘川地域における教育の一貫性を求める声が多く上がり、荘川小・中学校を統合して行う義務教育学校への移行を求める要望が提出されました。地域との協働の姿勢は、子どもと学校を基盤とした地域づくりの手本となり、他地域への波及効果も期待されます。

市の構想として「荘川さくら学園で、未来社会を生き抜くための力を育む」とし主に①荘川から世界の人とつながる『プレゼン・ICT能力』『外国語能力』『確かな学力』の育成、②荘川で生まれ育ったことを誇りに思い、地域に貢献する『地域社会人』の育成、③変化する未来社会に適応できる『対人関係能力』の育成、以上の内容で説明がありました。

○議会の視点

【問】学校の特色と教育目標については

【答】未来社会を生き抜くための力、特にプレゼン・ICT能力、外国語能力、地域社会への貢献、対人関係能力の育成に重点を置いている。また、郷土教育、外国語教育、対人関係能力を学ぶ教育を主な取組とする。



【問】特認校制について

【答】市内どこからでも通学可能となる制度であり、就学機会の拡大を目的としている。令和8年度から導入されるもの。市内在住の児童生徒が対象となるが、通学は保護者の責任で行い、通学経費も保護者負担となる。なお、転入学については住所変更の対応となる。

【問】学校の規模と体制については

【答】学校の規模や定員、教員の配置、特別支援学級における英語教育の推進などは検討中である。

【問】地域との連携については

【答】地域社会との連携を重視し、地域に貢献できる人材育成を目指す。

○今後の期待

教育現場の統合と連携を強化することが重要視されています。「地域とともにある学校」と称される制度は、学校を地域の核とし、住民参加型の取組を進めることで、地域活性化にも寄与することが期待されます。現在、朝日・高根地域から出されている「朝日・高根地域の保育園と小中学校が一つになった義務教育学校」についても同様であり、学校再編の大きな基礎となっていくことが期待されます。